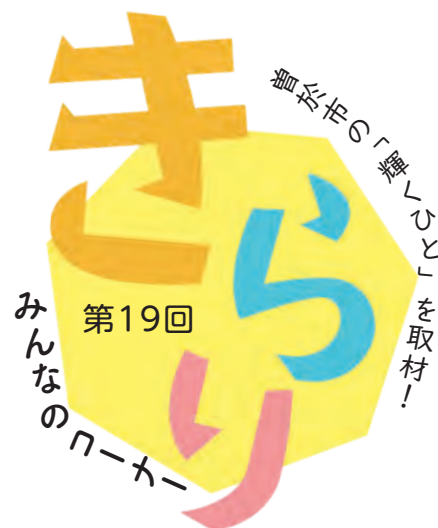




デイサービスで働きながら、休日はボランティアで各地に「笑顔」を届ける亀元さん。現在活動の中心である「たからべひょっこ一座」についてうかがいました。

財部町川内 亀元 美代子さん



自分も楽しみながら 人生を謳歌していきたい

「ひょっこ」と踊りを始めたきっかけは？

財部の川内自治会に元々ひょっこ踊りのグループがあり、私の夫が関わっていて「お前もせんか」と夫に誘われたのがきっかけですね。最初はひょっこと踊りだけでしたが、出向いてそれだけではさみしいなと思い、自治会の三味線をしている女性を引き入れて今の「たからべひょっこ一座」になりました。一座になつてから丸4年くらいでしょうか。メンバーは14人で女性は私も含め5人。裏方で着付けや片付けを積極的に行ってくれる方もいて、とても助かっています。やっぱり女性が増えると活気づくし、よりきめ細かい事ができるように思います。

「ひょっこ」と踊りの魅力は？

私たちは即興なので練習もあまりせず、つたない踊りではありますが、見てくださった方が「ああ、楽しかった!」と言ってくくださる事でしょいか。笑って喜んでいただけるのが一番ですね。

一座の中にはメンバーの子や孫もいるのですが、子どもたちがお面をつけてひょっここの格好をしているだけですごく喜ばれます。去年は泣いて踊れなかった小さい子が、1年経つと踊れるようになったりして、成長を感じられるのも楽しいです。

「家族の協力はありますか？」

夫も一座のメンバーなので「こんな踊りをしたいんだけど」って相談すると一緒に踊ってくれます。人数が足りない時は音響係などで息子や孫にも手伝いをもらいますね。今は家事をする男性も増えてきました。うちも私が家に帰るとお皿を洗ってくれていることがあったりして、そういう時には「ありがとう!」と必ず感謝を伝えるようにしています。

「今後の活動について教えてください」

市内外呼んでいただいています。が、地域の行事などに出てこれない人もいますよね。そういった方のお宅に、個別に出向いていき、

踊りや三味線を見ていただけたらいいなと思っています。最近笑うことがない、踊りを見たいけど行事に行けない、というような方のところにぜひ呼んでいただければ、畳1枚分のスペースがあれば踊れますので!

「自分ができることをやって喜んでくれる人がいて、自分も楽しみながら人生を謳歌していきたい。何事も細く長く続けることが大事」と語る亀元さん。今後もたくさんの人を笑顔にしてください!



【取材：曾於市男女共同参画推進員】
島子正一郎・馬場雅子・牧元宝治・末永順子